

歌仙「吾が日々」の巻

起首 平成十六年二月二十四日
満尾 平成十六年四月 六日

才	発句	されど吾が日々はるかなり葡萄吸ふ
脇		祖父の水車に思ひ出の月
第三		稻を刈る姉さん被りあちこちに
四		軽トラの上傾ぐマネキン
五		西口背に商ふ母が手を上げて
折端		縁台の子らおはじき遊び
折立		蝉時雨鎮守の森にこだまする
ウ		さざ波遠くめさす対岸
ナオ折立		アラスカの海越え來たる メール
ナオ折立		恋する二人登山樂しむ
ナオ折立		菩提樹を吹く風の色老いし目に
ナオ折立		貧しき家に草木染めする
ナオ折立		病む師らと連句巻く夜の冬の月
ナオ折立		雪積む野辺に犬の遠吠え
ナオ折立		リーダーの悠然群れに歩みに入る
ナウ折立		静まる里に一陣の風
ナウ折立		蛇尾(さび)流れ古城公園花の中
ナウ折立		茶箱の点前(てまえ)初蝶来る
ナウ折立		春うらら鳥ヶ森に友集(つど)ふ
ナウ折立		おぼつかなくも天狗舞ひする
ナウ折立		女面外しやもめが酒をくむ
ナウ折立		思ひ語らむ古里の詩(うた)
ナウ折立		山巡り野は茫茫と初夏の馬
ナウ折立		蚕を追ひて時を忘れる
ナウ折立		ワンワンと泣きながら行く子が独り
ナウ折立		雨の石段腕組みながら
ナウ折立		縁結び願ひの絵馬の真新し
ナウ折立		三味の音凜と下町の露地
ナウ折立		赴任した学舎跡地に月登る
ナウ折立		コスマスも皆もう眠りつく
ナウ折立		三姉妹背中かがめて墓洗ふ
ナウ折立		滝音耳に鳥の影見ゆ
ナウ折立		山降(くだ)るザワザワ畠野足下で
ナウ折立		孤影きびしき虚空の旅
掌句		花曇る一時(ひととき)史書を繙きて
掌句		水面を染める春がゆらゆら

和英昭久晴房晴久昭英和晴房昭久和英晴房昭久和英晴房子昭英史昭一秋秋月

春春雑雑秋秋雑雑夏夏雑雑春春雑雑冬冬雑雑夏夏雑雑秋秋月
・花月恋恋花月恋恋